

図書館の蔵書から その3

—生徒・職員復興に立ち上がる—

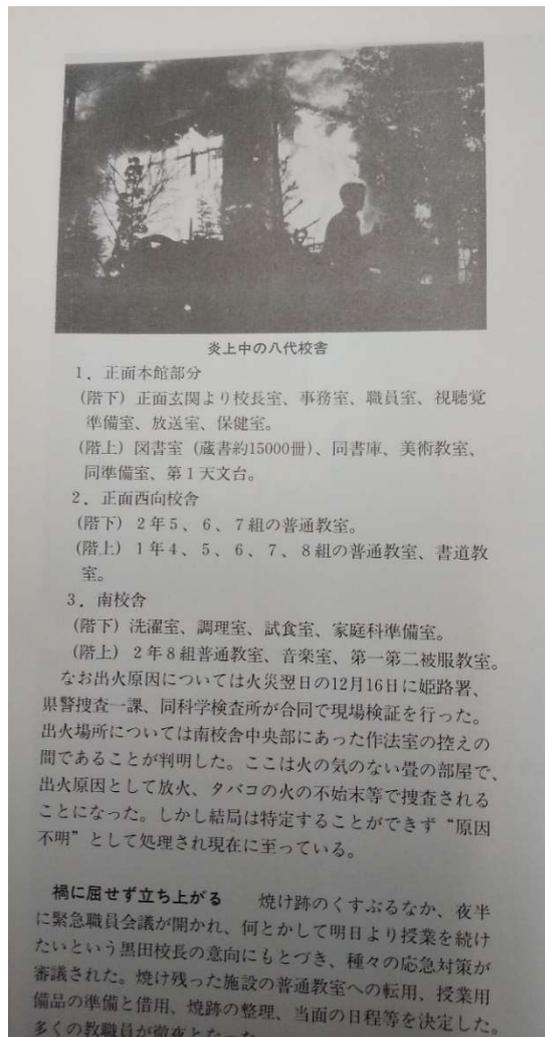
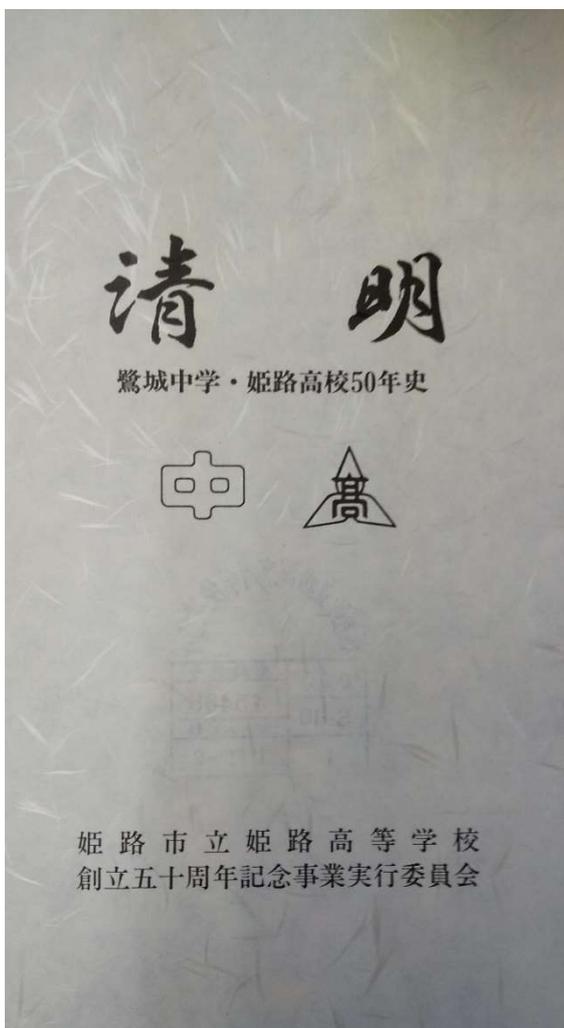
姫路高校は1970年（昭和45年）12月15日の校舎焼失から1月も経たない1971年（昭和46年）1月11日には、図書を受け入れを行っています。1970年度（昭和45年度）の受け入れ状況（受け入れ冊数）はつぎのとおりです。

年月日	寄贈	市費	生徒自治会	寄付金	合計	累計
46. 1.11	52				52	52
46. 1.20		14	1		15	67
46. 2. 1	53				53	120
46. 2. 3	46	19			65	185
46. 2.10		26			26	211
46. 2.13		69			69	280
46. 2.17		28		1	29	309
46. 2.20		49		1	50	359
46. 2.22	70				70	429
46. 3. 2	29				29	458
46. 3. 5	28				28	486
46. 3.11	45				45	531
46. 3.13	13				13	544

46. 3.15				108	108	652
46. 3.20				50	50	702
46. 3.23	8			80	88	790
合 計	344	205	1	240	790	

寄贈、寄付金によるものが多く、2か月余りの期間で生徒全員が1冊は読める冊数を受け入れ（登録）新学期を迎えています。「生徒・職員復興に立ち上がる」ですね。

『清明 鷺城中学・姫路高校50年史』（分類番号090）の火災に関する記載を見ましょう。



無念の惨事

1970年（昭和45年）12月15日、午後7時25分頃南校舎1階中央部にあった作法室付近から出火、短時間のうちに燃えひろがり、校長室・職員室等管理棟をふくむ2200㎡を焼失した。

不覚の大火災は教職員・生徒をはじめ、卒業生・父母・関係者にとって忘れ得ぬ傷跡となり、今なお大きな痛みとなっている。

しかしその後、地域の人々や教育関係者の温かいはげましと、市当局の物心両面にわたる援助に支えられ、教職員と生徒は師弟一体となって、非常事態に屈せず立ち上がっていくのである。

『リレー座談会でつづる50年回顧』のページを見ると、

「学校が燃えている」昭和45年12月15日

12月15日でした。学校から帰ると電話がかかり、「学校が燃えている」というので、はじめは本当にしませんでした。外へ出たらサイレンが鳴っていて学校へ電話したらずっと話中で、ほんものやということになりました。それであわてて、駆けつけると、聾学校のところでもう通行禁止になっており、職員やと話して通してもらいました。学校に着くと、東門のところに消防車はハマってしまっていました。その時はまだ職員室や図書室は燃えていませんでした。南の集会室が燃えており、あそこに防火壁があるからとまるやろと言っていたのに、燃えてしまったのです。

焼失した校舎として、「図書室（蔵書約 15,000 冊）、同書庫」とあります。また、数々の援助として、328 件、260 万円余の見舞金があったこと、とくに地元の二つの書店から各々30 万円相当の書籍が寄贈されたことが記載されています。

次に「図書原簿」から、年度別の受入冊数を調べてみました。

1978年度（昭和53年度）には10,862冊の蔵書数となりました。1988年度（昭和63年度には）15,185冊の蔵書数となり、焼失した冊数を超えました。



1971年（昭和46年）1月11日、火災後初めて受け入れた
図書52冊のうち、現存している蔵書(登録番号1から登録番号15)